

望ましい集団活動の活性化と自主的・実践的な態度を育てる特別活動の在り方

日立市立塙山小学校

1 はじめに

本校では、昨年度より「マナーからの脱却」を合い言葉に特別活動の改善を進めている。今年度は、「児童が充実感や達成感を味わえる活動の工夫」を課題として、「各委員会活動の見える化」を図ってきた。具体的には、各委員会からのお知らせの在り方を工夫改善していくことを実践した。

また、「先生に言われたからやる。」「高学年だからやっている。」といった、義務感ややらされ感をもって活動している様子が見られた。そこで「やりたい・やってみたい」から「やった・できた」という充実感や達成感、満足感を得られるとともに、子供たちが主体的に取り組んでいると感じられるような仕掛けをしていくことを試みた。

2 実践事例

(1) 委員会のネーミング

従来の委員会の名称に加え英語表記（愛称）。

Ex.計画委員会＝プランニング委員会・給食委員会＝フードリーダー委員会など。

(2) 放送による児童集会

計画委員会を中心となり児童集会を計画。

ア 各委員会の紹介

5～6月に各委員会が活動内容の紹介や全校へのお願いを中心とした校内TV放送を実施。

イ 行事等に関する連絡

TV放送を通してそれぞれの委員会が各行事等の取り組みの説明や呼びかけ。

プール開きについて運動委員会、虫歯予防や目の愛護デーについて保健委員会など。

(3) 掲示資料の工夫と充実

低学年でもわかりやすく、興味をもてるような紙面作りの工夫と改善。

ア 形式の統一

用紙のサイズ（A4縦）に統一。各委員会の特徴を出した紙面の形式

イ 特別活動コーナーの整備

昇降口にある特別活動コーナーの掲示をリニューアル。

各委員会からの連絡掲示板として活用。



資料1 特別活動コーナー



資料2 掲示資料の例

3 成果と課題（○：成果、△：課題）

○放送集会は、紙芝居形式や寸劇など各委員会が工夫を凝らし楽しい集会となった。

○掲示物についても、分かりやすく見やすい紙面となり、活動の充実が図れた。

○他の委員会の活動が見えたことで、放送の内容や掲示物の書き方など回を重ねるごとに充実してきた。

○自分たちで考えたネーミングに愛着をもち、委員会活動が身近に感じられるようになった。

△奉仕的活動に関して意識が低いので今後、奉仕的な活動への意識を高めていきたい。